

情 報 局 一 報 編 輯

九 月 二 日 第 二 百 六 十 七 號

寫 眞 週 報

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

事變前までの社會が

なんとそらぞらしく目に映ることか

『古い』の一語で片づけられてしまはう

この一語にふくまれたあらゆる過去の生活形態

試みにそんなものを麗々しく取り上げた

小説や映畫や演劇は

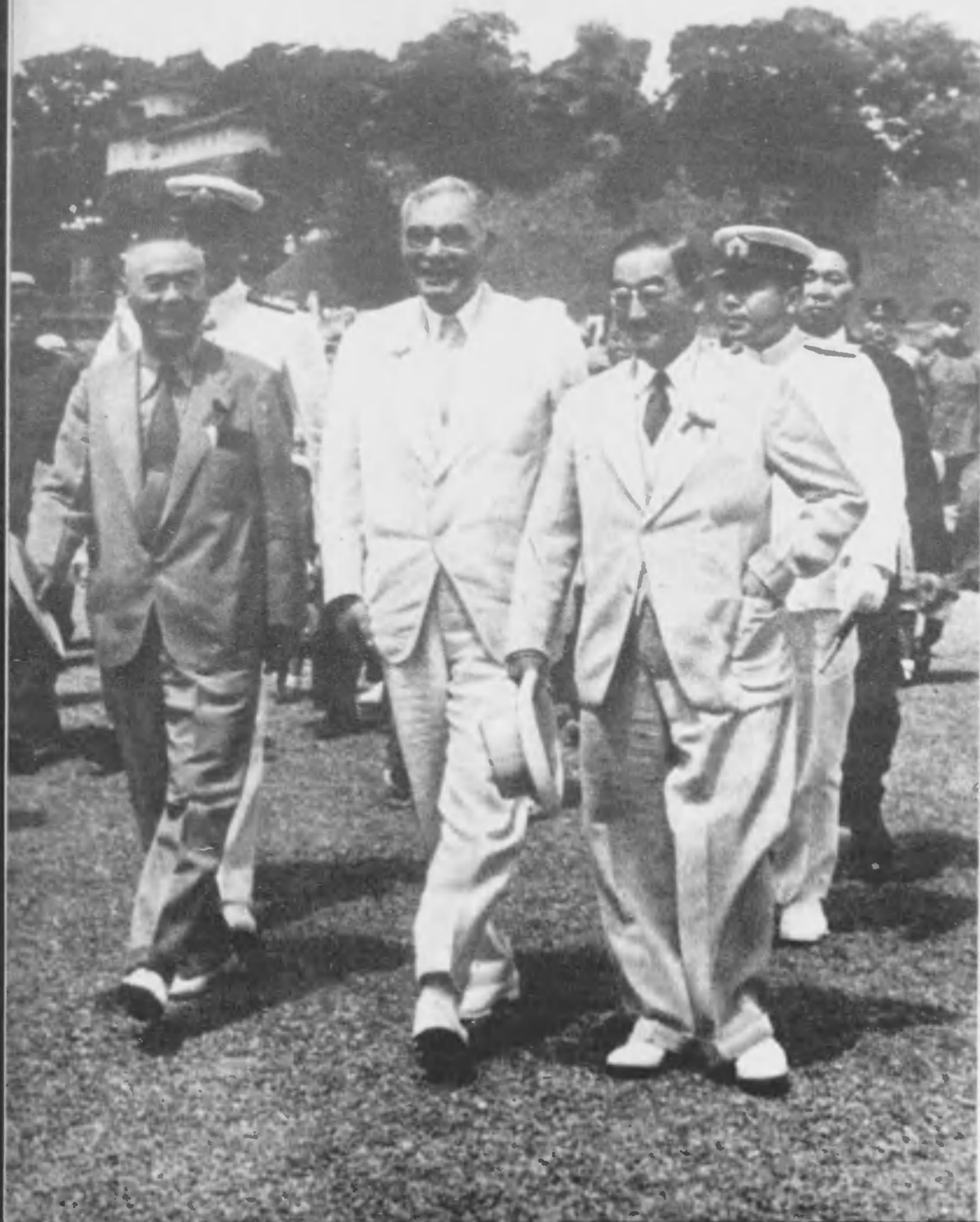
その生活の殘骸のむなしさに呆れかへるばかり

吾等今日のこの眞實の生活を生き抜かう



偉なる祖國懷しの母國

米洲から交換船で歸つた人々



横濱に内地への第一歩を印した野村、來朝、右射三大使は直ちに軍を離れて宮城前に至り、瑞氣みなぎる大内山の大興に敬虔な最敬禮を捧げて何かほんとした三大使は喜びを包みきれず、正砂利を踏む足取りも軽い

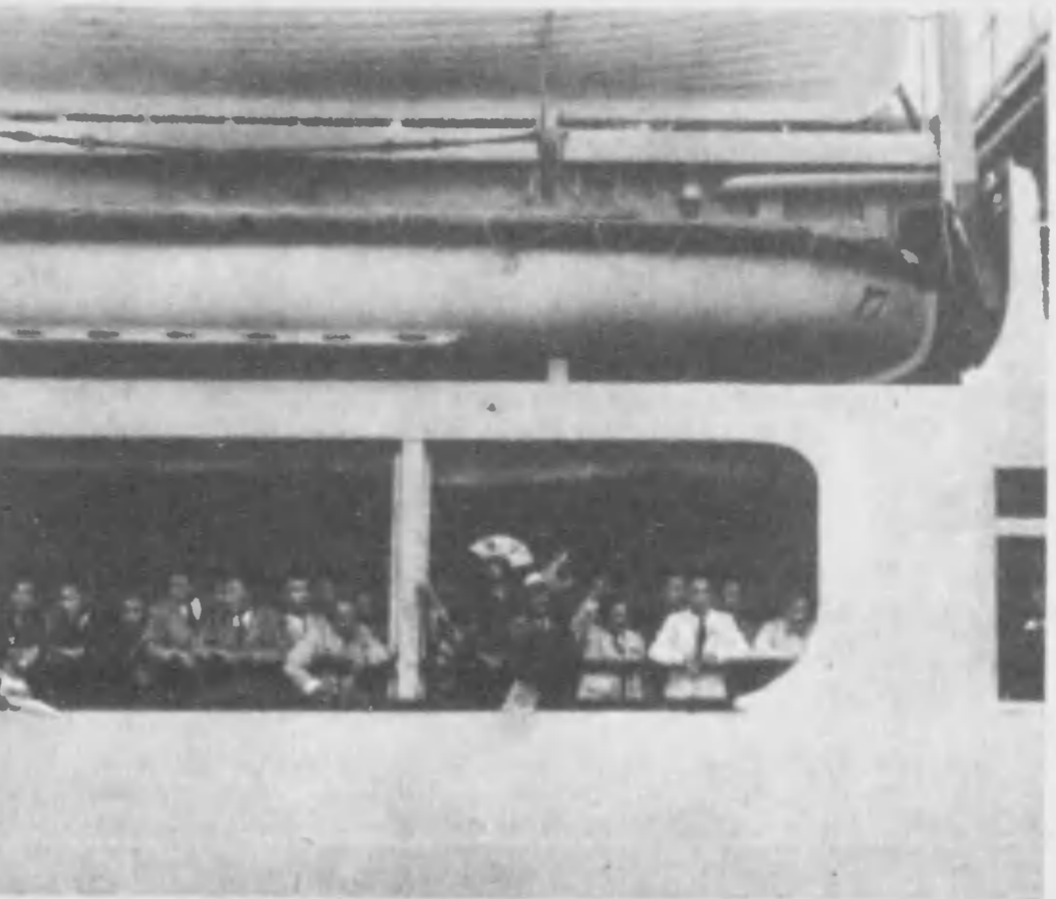
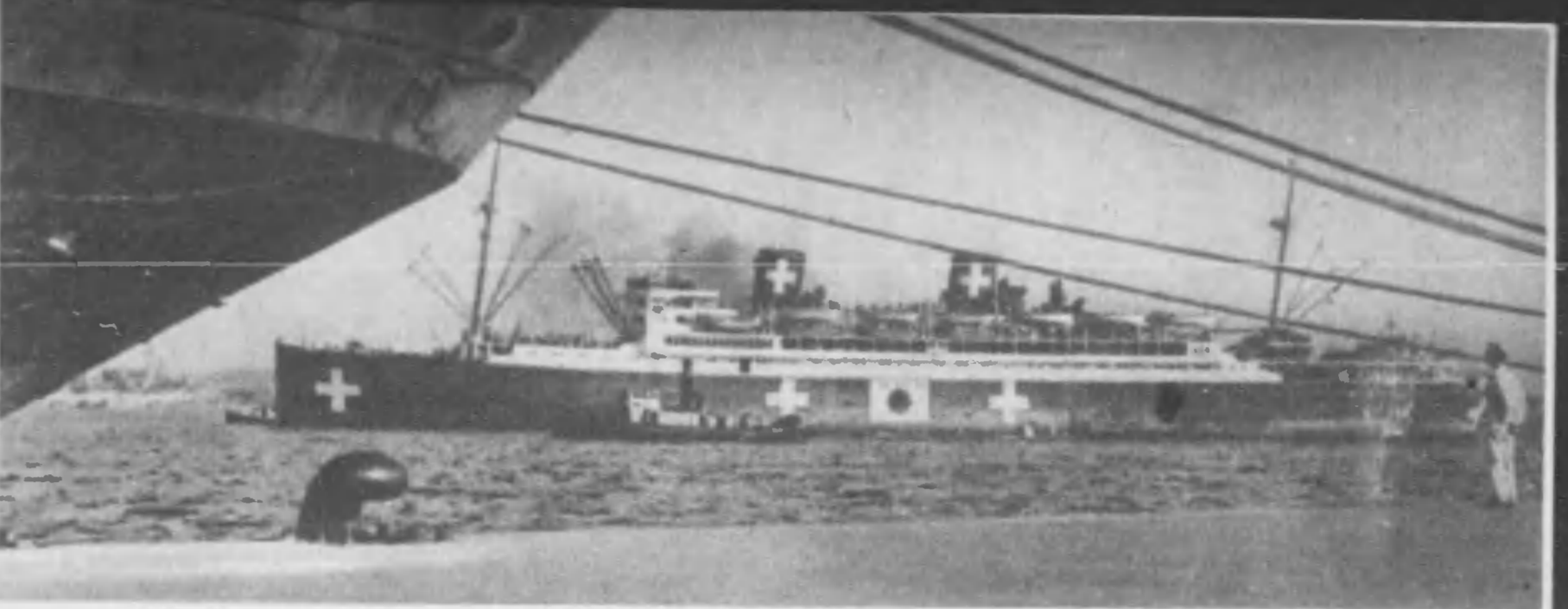


白十字の旗を掲げた引揚げ丸
乗客が乗船した横濱丸

四國海軍に預けられた横濱丸
引揚げ丸
乗客は感涙の涙を流し、船を離れて行く

引揚げ丸の人々は、そのあたりを見る故郷の美しい景色、昔とは大抵違っているが、想像してゐたより平穏な姿に驚異の目をみはりながら、身寄りへ行く

戦争下、相離れてゐた肉身の愛は、相
見た瞬間、言葉もなく胸をくぐり、結ばれた



偉なる祖國懐しの母國

米洲から交換船で歸つた人々

日米交換船「渡辺丸」及び「コンチ・ツエル」は野村、桑柄、石野三
大佐はじめ北米、中・南米のわが外交官、一般引揚げ邦人千四百
余名を乗せて九月二十日早朝、横濱港に入港、懐しの故國に無事
の使命を果たした。

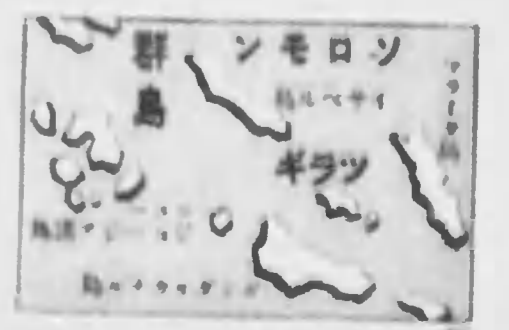
この朝、グリップスホルム號で「モーロー」をたつて以来、リオ
デジャネイロ、ロレンソ・マルケス、明南島と白十字の標識一つを
頼りに七つの海を越えて来た引揚げの人達は、船が岸壁に着く二
ヶ月に渡る船旅の疲れも忘れ、甲板にギョウギンで、岸壁に出迎
への家族や友人などに向つて手を振るもの、鼻をこするもの、ハン
ケチを噛みしめるものなど何れも目に一ぱいの涙をた、へて来た。
これは敵國アメリカをはじめ南北米大陸からはるく、懐しの祖
國、戦勝に輝く日本に歸り得た感涙の涙であつた。



「懐は何處か、どこ
にゐるのだらう。」
「朝も早く愛娘を見
ようと思つては、
息子の手に抱かれて
小手をかきさす」

群島 ンモロソ 艦 島 キラツ

単が海ンモロソ 襲奇の夜暗す摩相々無



群島 ンモロソ
 艦 島 キラツ
 単が海ンモロソ
 襲奇の夜暗す摩相々無
 八月の暮間、海軍の艦隊が、この島に上陸した。この島は、海軍の艦隊が、この島に上陸した。この島は、海軍の艦隊が、この島に上陸した。

原本不明瞭



田中新比島方面陸軍最高指揮官着任す

東段北比島を襲撃して全比島既定の備置をなしとけた本間重光中将の後任として、今同比島方面陸軍最高指揮官に親補された田中新比島中将は、八月四日官路より着任、同日軍司令官官邸に本間中将を訪問して、時間的余裕のある所管事項の引継ぎを終へ、翌五日軍司令官に初参見をした。田中新比島最高指揮官は人を知る者で、比島内政の整理に、且つ比島大使館前武官などの経歴を、アメリカ通でもあり、比島再建の要役として、比島に赴任した。今後の手腕が期待される。

本間重光中将の遺骸を、今後の手腕が期待される。



マニラ飛行場に到着する田中新比島司令官は軍官多数の盛大な出迎へをうけた(左端)司令官(右)本間重光



本間重光中将の遺骸を、今後の手腕が期待される。



マレーの俘虜

陸軍上等兵 竹森 一男 作

彼等は黄褐色の開襟上衣を着、半ツポンの服から下を露出にむき出し、短靴を穿いてゐた。頭には緑の濃い麦藁帽子や、赤い房のついたトルコ帽や、或は黄色い無縁帽を少し傾けてかぶつてゐた。中には長髪を頭上で束ね、その上にターバンを巻きつけてゐる兵隊もあつた。みな陽に灼けて緑色の皮膚をして眼ばかりきよ／＼光らしてゐた。掌は黄色だつた。三列になつて隊伍を組んで来たインド兵は、緑色のツポンを穿いた指揮者の號令に随つて道路の上に停止した。そして左向けをして兵站廣場の芝生に面したとき、一齊にそろつて右足を擧げ左足を踏みこむやうにして不動の姿勢に返つた。タン：靴が小気味よく鳴つた。と、彼等は休めの號令によつて兩足を開き、兩手を組んで腰に廻した。更に「腰を下ろせ」で合歡木の並木の下に腰を下ろした。頭を丸がりにして、五、六本の毛を殘してゐるネパール兵は、背も低く、ずんぐりとしてゐて、日本人によく似てゐた。頭にターバンを巻いた兵隊はすべて頸を垂へ、遠しい體格のものが多かつた。他の兵隊は黄褐色の皮膚をしてゐたが、背格も、眼付も白人種を思はせた。

「あのピロロドの無縁帽はインド人の大財主だ。中隊全部ひきつれて投擲して来たらしいね。」

二人が目をならべたとき、大泉軍曹は眞直ぐ前方を眺めながら、怪しい打とけた調子で云つた。そして更に言葉を續けて

「白人のために、何故日本を敵にしなければならぬのか、と考へたらしいんだ。私も兵隊といふ職業をしてゐるが、戦争をしよう、と考へても考へてゐない連中なんだから、この民族的な大戦争の犠牲に立てるとは、英國も大きな誤算をしてゐたわけだ。大尉は進んで投降して来たらしいが、話によると英人の督戦だけは勇猛果敢だつたらしいや。」

と云つて大泉軍曹は大笑した。

「本當は、インド兵はこの方がよかつたんでせうね。」

と溝口は我がことのようにインド兵の平安な姿を喜ばなから云つた。

「全くだ。しかしインド人つて實に單純で善良だね。みんな俘虜になつたことを喜んでゐるんだから愉快だね。」と大泉軍曹はちらりと彼等の方向を眺めながら云つた。

彼等は、最初投降したとき、また日本軍

の眞意が分り兼ねたので、どのやうに待遇されるのか、誰一人自信を持つてゐるものはない。指揮者の大尉を信じ、督戦隊の英軍に殺されるよりは、日本軍に身を委す方が、危険の率が少いと思はれたのだ。白人がインド兵を前に出したといふことと、日本軍があまりに強かつたことがインド兵の行爲を決定したのだ。また彼等が英軍となつて、アングロサクソンのために日本軍と戦ふのだと反省したとき、未だかつて感じたことのない矛盾に氣付いたのも事實である。その後が、どうならうと、彼等にとつて、投降の命令は一つの救ひであつた。投降するや、一切の恐怖が去つた。それゆゑ、英國の威嚇的な策謀から脱して、督戦の敵とは思はれない親しみのある日本の兵隊の顔を見たとき、また大尉を通じて傳達された、青天の霹靂ともいふべき日本軍の投降インド人に対する意圖を知つたとき、彼等の更生の歡びは極點に達した。よくは分らなかつたが、「東洋人はお互に手を握り合つて白人の搾取から自由にならねばならぬ。インド人と日本人は提携して東洋の幸福を築かねばならぬ。お前等は敵ではない。大きな使命のために、お互に協力してやらうではないか。インド獨立のために日本は身をもつて協力しようとしてゐるのだ」といふ意味を呑み込んできた。

俘虜の運命が一轉して、東亞解放の協力者となつた。自分達の命が救はれたばかりでなく、日本の友となつたのだ。一瞬だけでなく實際の眼で、日本軍進軍のすさまじさを目撃し、その厳正な軍紀を知つたとき、彼等の畏怖と崇敬は本能的に驚歎の中からたかまつていつた。しかも温良な俘虜兵に對して日本軍の取扱に目を見

つ蘇生の熱涙が新しい献身的な情熱を呼びさました。更に大尉からインド獨立の機會を語られたとき、彼等の裡に眠つてゐた民族の血が目醒め、愛國の至情が胸にあふれてくるのを感じた。毎朝、兵站の指令で各方面の健役に服してゐるのだつたが、一捆の荷物を擔ぎ、一罐の石油ドラム罐を運搬しても、彼等は東亞解放の意義を感じ、インド獨立の夢を描くやうになつてゐたのだ。

二人は黄白の細長い建物の門をはいつていつた。そこには三人の兵隊が白人俘虜のために食事の用意をしてゐた。厨房の中で飯盆の飯を蓋に移してゐる兵隊は、大泉軍曹の姿を見ると、恭々しく敬禮し、にこやかに腰にかけた短靴を絞ばした。大泉軍曹はそれを覗きこみ

「御苦勞さん」と云ひ、更に「君達、いやにめしが遅いんだな」と云つた。「いえ、これは英人俘虜の分です。どうも奴さん、米のめしと梅干にはさすがに參つてゐるらしいです。」

兵隊は袋の中から赤いよく漬かつた梅干を取り出しながら云つた

「ほら、やつぱり困つてゐるかね。もう俘虜に饑饉な御馳走を作つてゐるひまもなからうからね。ハ、ハ、ハ、だが、考へてみると、この日本料理には參るだらうさ。」

「腹が空から米は食ひますね。ところが味噌汁や梅干は非常に苦手らしいです。ぼつ／＼食べ始めたものもありますが、大抵は残しますよ。しきりに砂糖を要求しますが、可哀相なので自分の懐中をばたいて白糖を買つて與へたのですが、非常に喜んで、サンキューの連發です。しかし圓々しいのにもあきれしてしましたよ。」

「なほとね、では中を巡察してみよ。」

人々の手と腕として、男を引
 長い杖の端を傳つて幾人停屍が収
 容されてゐる部屋の近くに来たとき、前の
 廣場で、まだ使役に出ないインド兵停屍が草
 原に腰を下ろし、或は一組にかたまつて笑
 談し、或ははなはなと練兵をやらせ、同
 僚の笑合で、或は風が眼についた
 ここには日本の兵隊が二人、彼等を引率
 して来たために時間を持つてゐた。その一
 人は数名のインド兵に囲まれて手負、何
 か説明してゐた。インド兵は自分の両手を
 縛り、そして「日本、インデアン」と叫ぶ
 と、兵隊は「インガポールが陥ちたらイン
 デアンと日本は酒を呑んで寝ふんだ」と云
 った。インド兵は拍手し、胸に手を當て、
 大笑し、大笑に感動した。もう一人は、
 インド兵と握手を取つてゐた。最後のすさ
 ましい心と努力にもはやらず、インド兵
 は腕に手をかかると、舌を吐き、とほされた。
 三人は負けた。その度に拍手と元氣な
 笑聲が起つた。

「い、早くですね、この場面を寫眞に
 つつ内地の人に見せたいですわ」と
 と満口は思はず云つた。
 「ふた、映畫に撮りたいところだね。
 奴等は停屍になつて、皆いじめを食はせて
 貰ふので、一生停屍をみたいと云つてゐる
 さうだ。愉快なこともあればあつたものだ
 ね。皇軍ならでは、こんな不思議な事を見
 ることは出来まい」と大泉軍曹は頭を
 掻かしながら云つた。
 やがて、英人の兵隊の前に行つた。
 窓が明け放されてあつて空の中は一日に見
 えた。四名の白人は並んで長々と長々と
 てゐた。二人は英軍を見つて、英軍がし
 て海軍と見つけた。軍曹はインド兵と同じや
 らなつたので、一番前を兵隊は白
 人とは思へなかつた。色も暗に灼けて行
 人種のやうだ。しかし真中に居た一人
 若い兵隊が半身を起して此方を見たとき
 その色の白さと青い眼が異常な印象を二
 人に與へた。痛ましいものが満口の胸を打
 つた。それはまだ少年の眼を驚かしてゐな
 い、かよわい稚さが、表情にもなよよと
 した姿態にも現はれてゐたからである。一
 番前の白人はほろろと手を取つて、
 た。そこには兵隊といふよりは人を小馬鹿
 にしきつたやうな様子があつた。満口は、
 悲しみをユーモアに変へようとする英人ら
 しいゼスチャーをそこに発見した
 目の年はいくつだ
 と大泉軍曹は若い白人を指して言つた
 「十七歳だ」
 と彼は答へた。何故
 か明るい色が急にこ
 の若い白人の表情に
 透つた。まるで少女
 のやうな顔だつた。全
 体が美しかった。彼
 は言葉を飛び降りて、
 立つたまゝ急いで草
 の葉を踏みながら、そ
 こにスピードを置いて
 示した。そして二人の
 前に空を越して立つて云
 つた。
 「トランプあるか。
 トランプをあれ、軍曹
 でやらぬ」
 「ふん、トランプが欲
 しいつて」と大泉軍曹は英語で答へたが
 「何で云つてやがんでえ」といふので
 満口の表情を賣つた



「トランプあるか。
 トランプをあれ、軍曹
 でやらぬ」
 「ふん、トランプが欲
 しいつて」と大泉軍曹は英語で答へたが
 「何で云つてやがんでえ」といふので
 満口の表情を賣つた

「トランプあるか。
 トランプをあれ、軍曹
 でやらぬ」
 「ふん、トランプが欲
 しいつて」と大泉軍曹は英語で答へたが
 「何で云つてやがんでえ」といふので
 満口の表情を賣つた

「日本人だつたら」と大泉軍曹は素直
 く満口の言葉を受取つた。黙つて端坐した
 ま、考へてゐるだらう。夢にも他國の停屍
 になつて、恥かきめを受けながら生きよつ
 とは思つてゐないだらう。トランプ遊びな
 んで日本人には絶対考へられぬよ。腹が空
 いて、兵隊を食ふにいらぬ。もつとそ
 こに戦場なものがなくてはならぬ。皆だ。
 ところが奴等の態度には人を小馬鹿にした
 やうなところがある。
 「たしかにさうですね。日本人なら停屍
 にならないでせう。停屍になる前に一切の
 決算をつけるか、なつてもあんな態度では
 ゐないでせう。不敵なものがある皆です。
 とにかく、殺される前に腹を切るところ
 まで決心しますからね」
 「全くだ」
 と大泉軍曹は肩に力をこめて云つた
 しかし、満口の頭の中には、十七歳の英
 人停屍の姿が深く刻みこまれてゐた。それ
 は英軍の一つの痛みを象徴してゐるかの
 やうに思はれた。十七歳で兵隊となつてお
 そらく最初の戦役に日本軍の停屍にならう
 とは、祖國を過大に信じてゐた彼にとつ
 ては信じられぬ事實であつたに相違ない。
 この若い兵隊は敵軍であるにも拘はらず
 敵としての抵抗を、ここにも見せてゐなかつ
 た故か、人間的な運命を満口は感じたのだ
 つた。
 「この少年には何の罪もないのだ」と満口
 は心の中で呟いた。しかし彼の態度の中
 に英國そのもの、象徴を見ることが出来る
 のだ。一人の人間が民族を代表してゐる場
 合があるのだ。やはり彼も英國そのものな
 のだ。敵なのだ」と彼は更に思つた。が、
 満口の感情はますます、満口をとらへてゆく
 のだつた。

停屍が空所より三町も行かぬうちに一豪
 の其の自動車が、その道を走り下した。そ
 して停屍が空所の前で停つた。その自動車
 は三町も積んでゐた。満口は目を見、急
 いで走つた。そこにはインド兵停屍が乗せ
 られてゐた。
 彼等は満口から送られて来たのだつた。
 インド兵は貨物自動車の中に立つたまゝ、お
 五の肩に担ぎ合つてゐた。七、八名が
 一齊に満口の方を振り向いたので、彼等の
 一瞬の表情は、満口の胸に突き刺さつ
 いた。彼等はもう何日も、舌つたことがな
 いかのやうに、きりりと唇をちぢめてゐた。
 褐色の皮膚であつたが、青年らしいみづみ
 づしさがあつた。しかし髪は亂れ、無精髭
 が生えて、長い疲労が絶望的な顔の中にあ
 つた。その表情は、めづらしい日本の兵隊を
 見るといふ興味に備かばかり動かされてゐ
 るだけで、そこには諦めとも悲しみともつ
 かぬ、荒涼たる無心の表情が透つてゐた。
 すがまゝに横顔に、どことも知れず、自
 動車にゆられて、彼等は運ばれてゆくので
 あつた

つたのである。生命は心臓の鼓動があるに
 も拘はらず、どこかに吹飛ばされ、腰は抜け、氣
 が遠くなり、死の恐怖がまねがれぬものと
 して脅迫を續け、既に生ける屍となつて、
 その魂を大自然の運命に委ねるよりなくな
 つて了つたのである。昨日までの自由と幸
 福の懐はあとかたもなく消え、夢でなく
 現實に、運ばれてもなない事實となつた。取
 り返しのつかぬ悔、恨、が、神を恨み、英軍の
 無力を責め、自分達の宿命的な民族的環境
 を呪ひ、捕縛の果ては全部を忘却してしま
 ふほど、強ひられ、殆んど夢遊病者のやうな状
 態になつてしまつた。彼等の眼裡にひらめ
 くものは、その間、どのやうな虚偽を受け
 やうとも、堪へられぬものは只一つ、日本
 軍による最後の決定的な虚偽である。殆ん
 ど全部の者が、日本の大理想と聖戦の意義
 を知り得べくもない。停屍といふ運命は戦
 争にあつて、最も呪ふべき不幸な終止符
 であるために、それはどのやうに處置せら
 るゝやも判別できない無意味さを含んでゐ
 るゆゑに、一層残酷な想像が彼等を苦しめ
 たのである

あらう。東亞の東亞人にするといふ驚くべ
 き戦争の意義を放棄せられ、インド獨立に
 關する判然たる意欲を呼び醒されること
 であらう。彼等は停屍の手に陥ちたものではな
 く、政界の力強い腕に導かれたといふことを
 知るのであらう。インドといふ祖國が、無
 はけしい愛國的情熱を教へられることであ
 らう。生の不思議さ、目撃した理性に閃く
 であらう。土のやうに色褪せた唇は、あ
 るに、眼は炯々と輝いて青春の光をと
 りもどし、頬には、熱い涙が、影を
 たる精力は希望の中に溢れ、溢れ、あ
 らう。死が生に一轉するはかりでなく、白人の
 権柄より永遠に解放され、自由になつたこ
 とを感じ、水いインドの歴史が彼等を深い
 諦めの中に閉鎖したその歴史が、宗教的
 情をみるうちに開放するであらう。彼等
 は停屍收容所の門を這入るや否や、元氣な
 同胞の噂々たる有様を異様な感慨の裡に
 見るのであらう。彼等はいま満口とすれ違つ
 た瞬間まで、これ等一切を諒解しないの
 だ。その更生の宣告を受けるまで、彼等は
 人生最大の苦惱を體驗してゐる。それゆゑ
 新生の自覺はどれほど彼等を感動させるこ
 とであらう

佛印は日本の誠實をみとめた。大東亞戰
 争勃發と同時に、タイ國は日本軍に友好的進
 駐を快諾した。日本軍は蘭印、フィリビ
 ン、ビルマ、マレーの各戦線にわたつて偉
 大な戦果を收めつゝある。その目的は東洋
 を東洋人のものとするたゞであつた。まづ
 各地に地盤を占め、永い歴史を支配して有色
 民族を搾取してゐる大英帝國を潰し、ビル
 マ、フィリピン、インド各地をその民族に
 よつて獨立せしめ、永遠の平和を確立し
 ようとする歴史的大偉業に着手しつゝある
 のである。その端緒として、インド兵停屍
 に対する日本軍の態度は、激的な戦闘のま
 なかにあつて、既に世界の驚異の注目を浴
 びつゝ實現に移されてゐる。日本はインド
 兵を活用して次ぎの段階に對處した。世界
 最大の國家を敵とし、廣汎な地域にわた
 つて戦果を擴大しながら、なほインド獨立
 を支援しようとする日本の底力は、最早や
 神業としか思へぬものがあつた。それは現
 在、満口の目前に證明されてゐるのだ
 満口は熱涙を感じた。戦友間の議論な
 ど、この偉大な民族的感動の前には何の價
 値もなかつた。あまりに小さすぎた
 「自分の世界観に何か大きな誤謬があつ
 たらしい。目の向けどころを變へねばなら
 ぬ」
 と満口は考へた。何か新しい思想が生
 れてくるやうな荒涼とした感があつた
 「まづ自分が皇軍の一員であることを誇
 りをもつてゐよう。そして大威張りして生
 きていよう」
 彼はさう胸の中で去くと、大股に、昂
 然と頭を擡げて歩いてゐた。太陽は既に
 東大の椰子林の上に現はれて、灼熱の光を
 世界からそそぎ始めた。それは爽快な朝さ
 とであつた

大東亞戦争日誌

八月一日

二十一日 ● 蘭印南島に對する英軍の
 ハート蘭島北端マキン島に對し八月十七
 日未明、米海軍艦隊が、アメリカ兵約
 二百名上陸せるも同島は守備隊は猛反
 撃により、夜半これを完全に驅逐



⇒ 一日の勉強を感へて、いそぐと帰宅。遠く見える
命記念塔も、いそぐと見えぬ。校長を案じやう...

⇒ 美しい四波が灼熱の太陽に輝く
さういふと、行軍する果てに輝く

⇒ 十時の時間—これまでのタイ国民は一般に質素な
生活に終りてきたので、大いに成長教育を施して



在タイ編 杉山 尾崎麻特法目



⇒ 佛教風しく学校には必ず佛壇がまつらる
が、佛への信仰を中心に情緒が養はれる

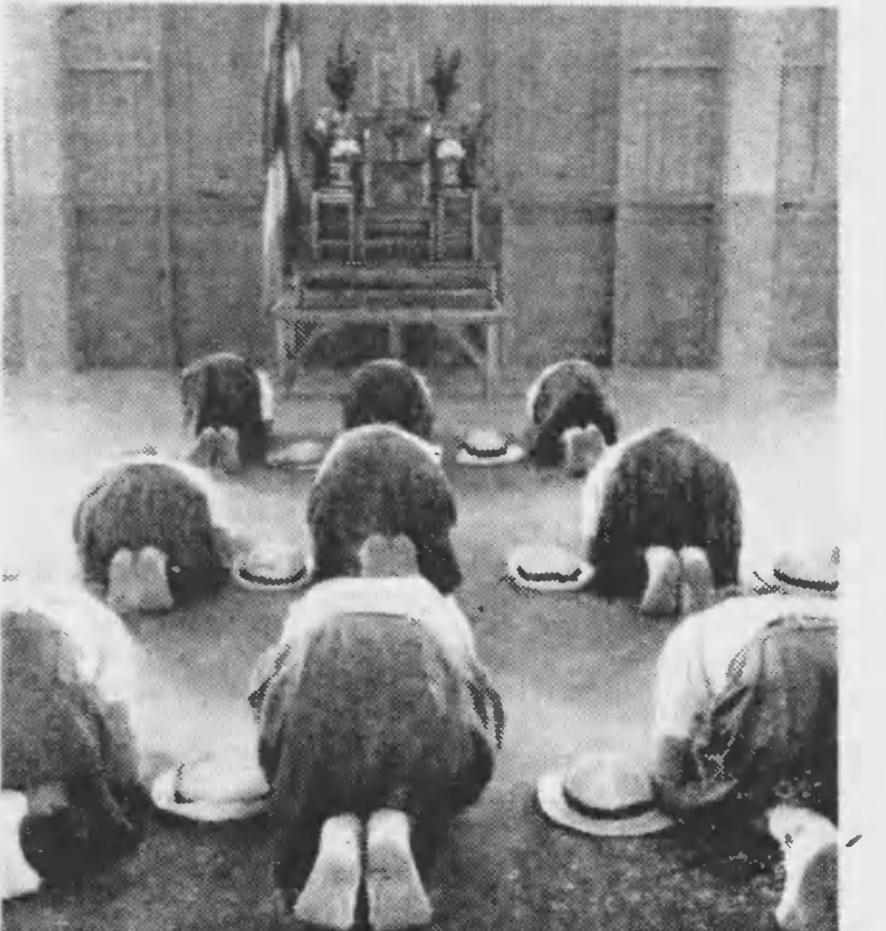
次を生を國イタイ強 代の母



先生の講義に熱心に耳を傾けてゐる女学生

一國の強弱は、その頃の若い世代、即ち若くは男女の間に掛つてゐることにいふまでもありません。わが國が少國民教育制度の漸期的改正を行つた、且つ青年學務制を設けるなどして、皇國民たるの達成に萬全を期してゐるものゝ意味からですが、タイ國が立憲革命以來、教育青少年教育の充實を急いで來たのもうなづけることです。ここに紹介したのは、暹羅としたタイ國の女學生です。最近では近代的な教育設備を施した學校が數を増し、就學者も激増してゐるさうです。整つた制服に包まれ、快く伸びた肢體に、躍進タイ國の將來が窺はれるではありません。

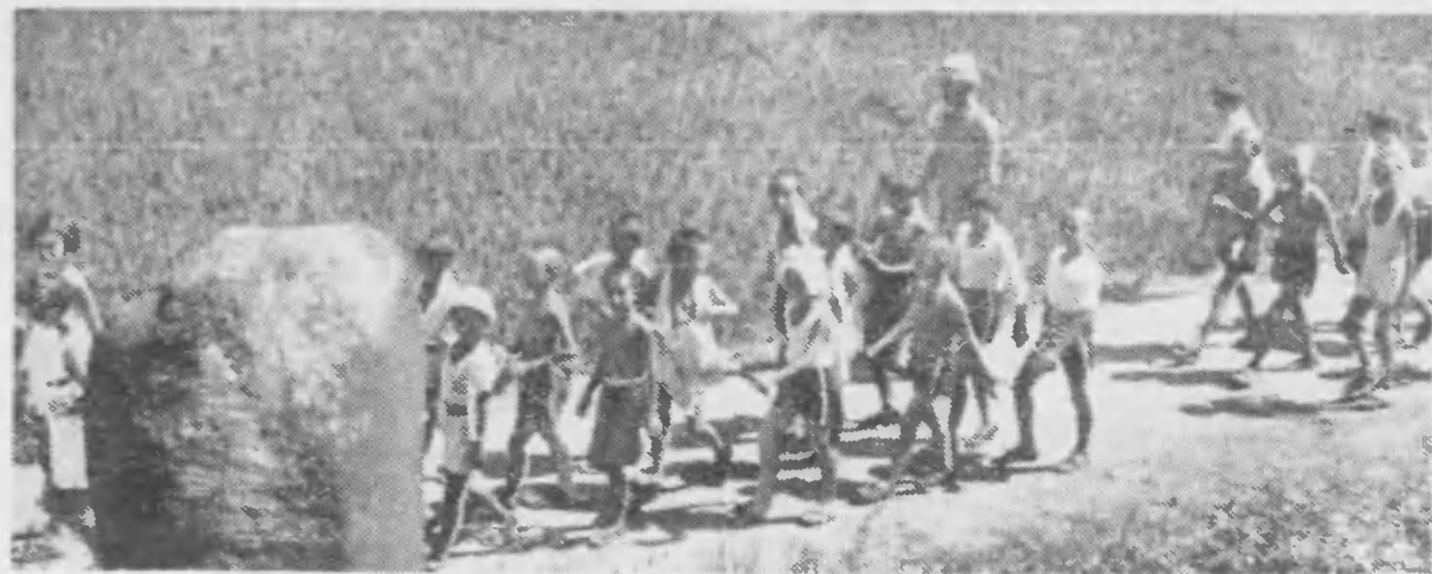
なほ、女學校四年から大學までの女學生で一種の女子青年團が組織され、團員は一定期間、赤十字病院で看護訓練を受けてゐますが、これもイワナリといつて、先のタイ佛印國境紛争の時には、イワナリの團員が、軍先鋒隊に赴いて、自衛し活躍をしてゐることを附記しておきます。



12

體の弱い子供たちに 夏季鍛錬の成績は

長崎市戸町国民学校



二 戸町国民学校の児童が夏期鍛錬中、走り回りをしている。

體の弱い児童たちに特別な保護を加へて、その健全な発達をはからうとする國民学校のいはゆる養護施設には、一般の児童と一緒に授業をうけることの不適當な虚弱児童ばかりを見つめて、その學校のなかにそれらの體を補成してゐる養護學級と、主として夏季休暇を利用して虚弱児童のために山間、海濱、温泉地などに開かれる養護寮と、もう一つ虚弱児童を一般の児童と切り離して別に一つの學校に收容してゐる恒久的な養護學校との三つがありますが、なかでも養護寮は最近著しく普及され、酷暑を迎へてこともまた全國に約千三、四百ヶ所、海に山に高原に大自らの鍛錬道場を開きました。長崎市でもことし初めての試みとして、虚弱児童のために市内戸町國民學校の養護寮にこの養護寮を設け、市内十七校の五、六年児童のうちから、病弱な男女各五十名宛を選んで、夏季休暇中これらの虚弱児童によさしい鍛錬生活を送らせました。



三 養護寮の先生が、児童の生活日記を指導している。

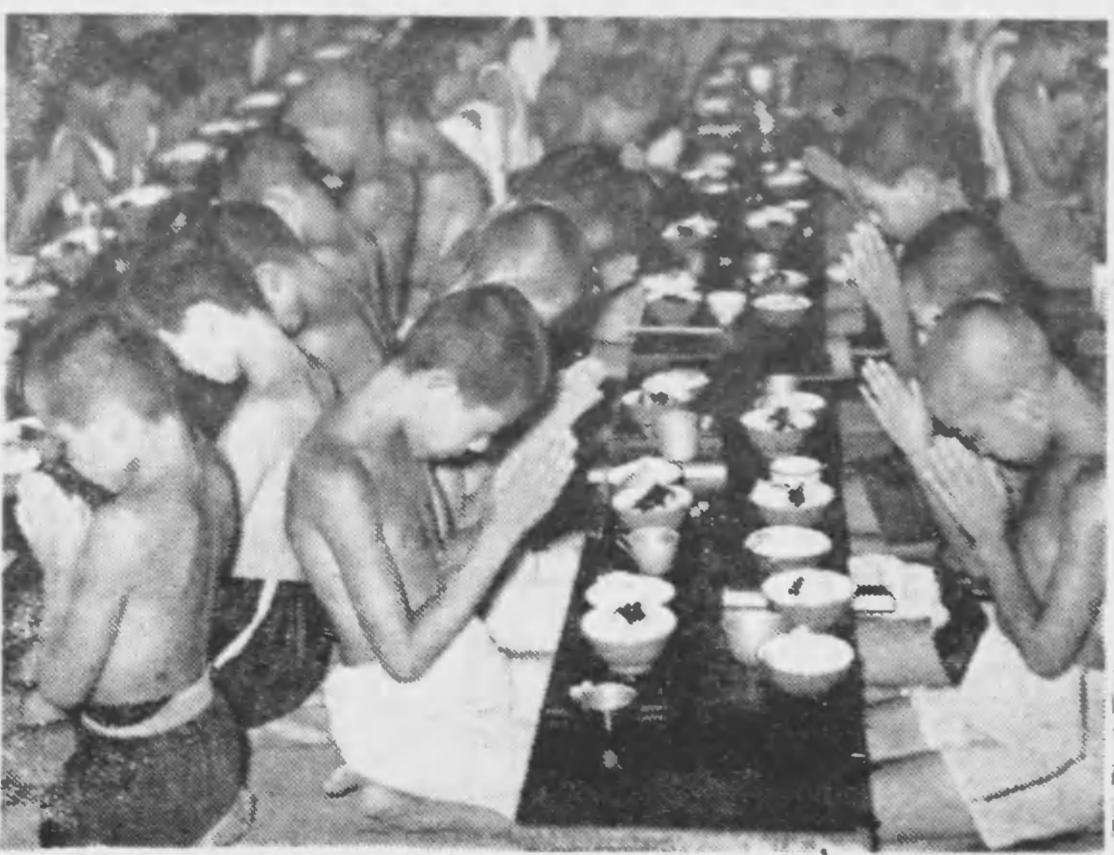
ただなかの起伏のあるいくつかの山に建てられた約千の小高い丘の上にあるこの小さな學校村には、七八人の先生と一人のお母さんと養護寮さん二人がつききりで、毎朝六時起床から夜九時の就寝まで、自分の身の廻りの整頓をはじめ、國民儀禮、ラジオ体操、冷水擦身、さては室内外の清掃と、準備をかねた鍛錬の日課はなかく厳しものでしたが、さういふなかにも電話會や映画會、學藝會などの楽しい行事も



四 朝早くから、児童は規則正しい生活を送っている。

折込まれて、村中の評議にも十分に気が配られ、二時間の生活を終へて歸つてきた子供たちの顔には、さういふ色澤が、いつか身にこぼれ、規律正しい生活の習慣は、親御さんたちを大變に喜ばせました。

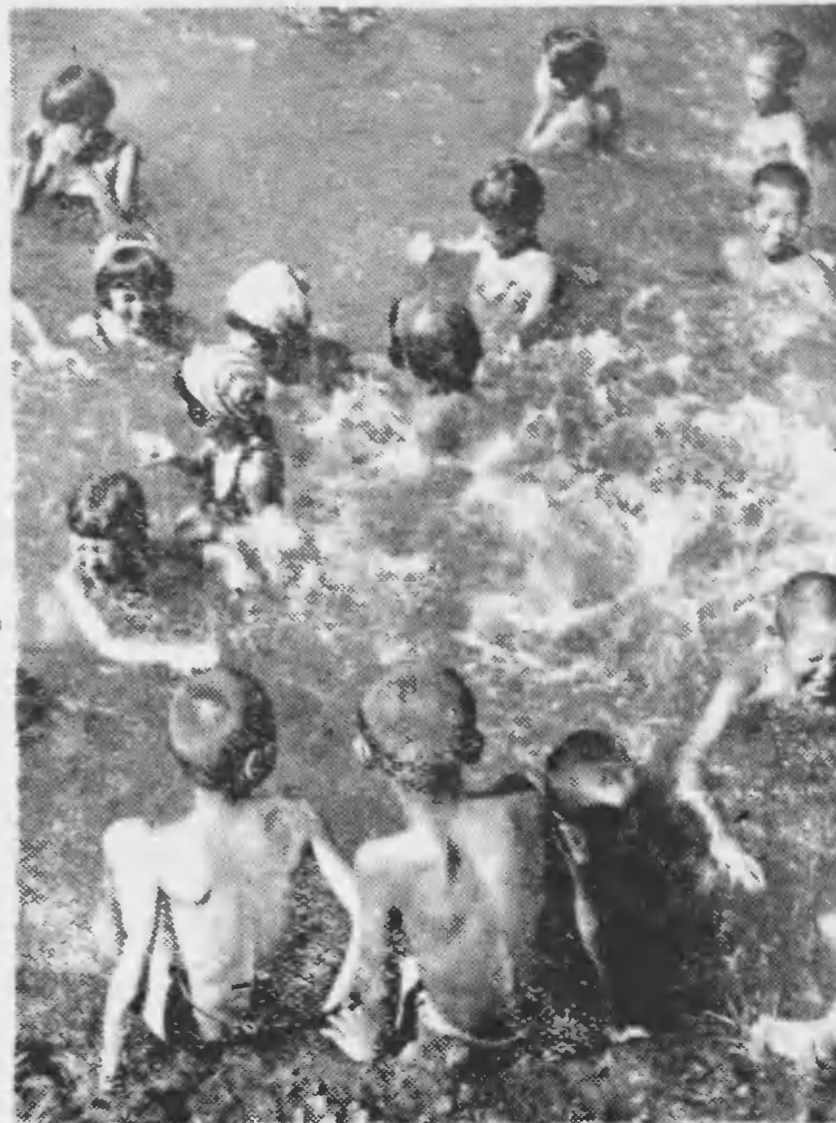
五 児童たちは健康状態をはかる尺度として、よく體重がどの位ふえたか、身長がどの位ふえたかを記録している。



六 お父さまお母さまと一緒にはしゃいで、楽しんでいます。



七 何んといつても一番楽しい川遊び。



八 午後のときにはお母さんの夢を見ている。

の倍伸びたといふことをいつたまのこの夏季の養護寮生活は、大抵二、三週間の短期間のものでは、體重にしても身長にしても直ちに現れるといふことは先づなく、むしろ場合によっては環境の変化などから一時體重が減るといふやうなこともへあり得るわけです。もつともなかにこの期間の割合に體重がふえたといふやうな結果はないではありませんが、養護寮生活の結果はそれよりも、質的な方面にあるといはなければなりません。それではその幼

もろもろ現在の養護寮生活にはある程度、改善しなければならぬ點が多々あります。大體からいへば、これまでは、虚弱児童を養護するの、とかく温泉的な考へ方に支配されがらでした。養護寮生活にとりましても、金持の保護のやうなものであつてはならない筈です。従つてこんこの經營に當つては、養護しながら、鍛錬するといふ方向に指導してゆくことが大きな眼目でなければなりません。同時に、たゞ行きさへすれば誰でもよいといふやうな養護の本筋から外れた無企圖なやり方はきつぱりと改められなくてはならぬとせう。しかしかういふやうな點も、こんこんと回を重けてゆくうちにたんだん本來のねらひに歸つてゆくにちがひありません。

要するに夏季の養護寮生活は短い期間ではあります。相當の成績を収めてゐるわけですが、従つてその効果が直ちに目に見えなくとも、親御さんたちは安心して先を樂しまれてよいのではないと思ひます。なほ終りに一言つけ足したいことは、たとへかうした施設に参加しなくとも、養護寮生活をつつとてゐると同じやうな規律正しい健康生活をつつとてゐる、お家にゐてもどこにゐても養護寮生活に行つたと同じやうな効果が得られるものであるといふことです。ことし養護寮生活に参加しなかつた皆さん、どうかこのことを念頭において下さい。そして弱い児童に丈夫に、丈夫な児童はいよく、丈夫になるやうに鍛錬しなさいと思ひます。

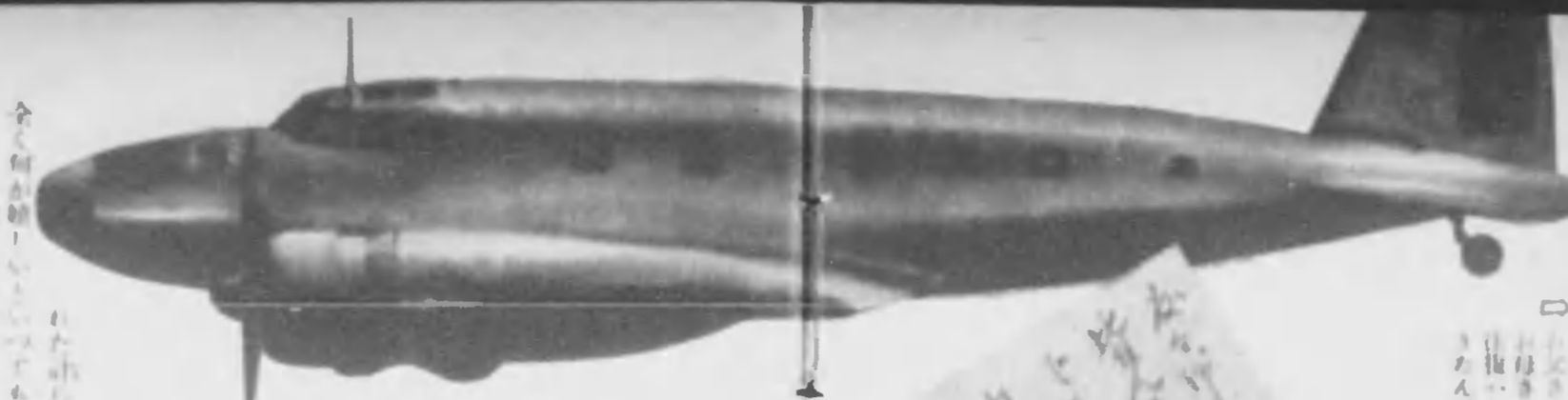
戦線と銃後をかける
空飛ぶ郵便船復讐隊



空飛ぶ郵便船復讐隊の母と子供たち。飛行機で送られた手紙を喜び合っている。



東條総理を喜ばせた一婦人からの手紙



東條総理を喜ばせた一婦人からの手紙



東條総理を喜ばせた一婦人からの手紙

全く何事もなく、現地の兵隊も、また銃後の軍兵も、皆、この特別郵便の便に、大いに喜び、手紙を送る者が、ますます多くなっている。...





戦後カゴモノを取引、掃引といふ。なまの整理は山の手で片づけられる。



若い指導員に修理のコツを教はつてお婆さんにも「コノ」と奉仕作業をやらせよう。

東京市の生活局指導員ではこの趣旨のもとに市民の戦時衣生活指導のため「巡回被服修理班」を組織して、モン百寮を動員、一班十寮位に指導員をつけて各町会単位に巡回させて古洋服や古着の更生や修理に當らせることになり、各家庭の主婦達から大歓迎を受けてゐます。



本仕度員は足かせはし、八、九寮のモン百寮を指導、見る／＼仕事の手が片づけられてゆく。

今日衣料切替制が實施されて衣生活は確保されては居ますが、この物を大切に活用するといふ良い習慣を十分に發揮して、なほ一婦衣料の消費節約の態度をはからうではありませんか。

三ツ指の擔いで 教へられたり 教へたり



カゴモノが来た、モン百寮の指導員が、お婆さんにも「コノ」と奉仕作業をやらせよう。



膝の抜けたカゴモノ、お婆さんにも「コノ」と奉仕作業をやらせよう。

大東軍戦中漫画誌



大東軍戦中漫画誌



大東軍戦中漫画誌



大東軍戦中漫画誌



大東軍戦中漫画誌



大東軍戦中漫画誌



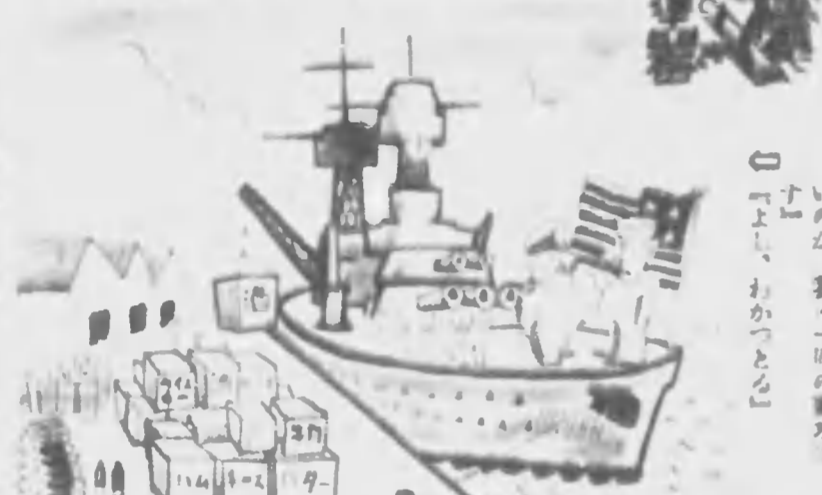
大東軍戦中漫画誌

大東軍戦中漫画誌

い聞故何は軍海カリメア



三杯目にはそつと出し
の酒を飲んだと聞いた
御主人とは責任も心
がけで働かす



「何をサボラとるんだッ
我々は世間一帯をさか
やるといふんで働つたん
です。こんな所で死ぬと
は到底いけません」



「あなた、聞てつてもルズダルト
「のためなんかに死んぢやいやよ」
「おれ、先づ酒と食料も
のをうんと積んでおらな
いのが、我々一同の要求
です」

大東軍戦中漫画誌

大東軍戦中漫画誌



空の軍神の 生家を訪ねて
北海道旭川市 河崎 清
はる／＼と敬慕の心にみだされた旅をつづけて
東京市青少年軍神加藤少将遺徳の一行七名は、八
月三日空の軍神加藤少将少将少将の地、北海道東
旭川市に到着、直ちに同郷にほど近い軍神の生家
を訪ねました
大雪山の麓、石狩川の畔、美しくまた雄大な自
然のなかに、屯田兵として開拓の跡をよるひ、警
備の跡をみつけた父のまじい魂と、優しく謙譲た
母の気性とをうけついで育かれた少年時代の軍
神を敬慕の低い屯田兵屋に偲んで、一行はいまさ
かに深い敬意に胸をふるわせ、眼に見えぬ数々の
思い出をお土産に軍神の家をあとにしました



軍神加藤少将の生家を訪ねて
軍神が少年時代に愛用した手帳
軍神の叔父さまにあたる藤田長次郎氏
軍神のお父さまにあたる藤田長次郎氏

復讐
本歌からあなたは何を学んだ
てせうか
1. 大東軍戦中漫画誌
2. 大東軍戦中漫画誌
3. 大東軍戦中漫画誌
4. 大東軍戦中漫画誌
5. 大東軍戦中漫画誌
6. 大東軍戦中漫画誌
7. 大東軍戦中漫画誌
8. 大東軍戦中漫画誌
9. 大東軍戦中漫画誌
10. 大東軍戦中漫画誌

所 込 申	價 定
全国各地官報販賣所	一部十巻(資料一巻)
書店・新聞社	(外資系に依る)
新聞販売店	(資料共一巻)
写真材料店	十巻(資料一巻)
	合を以て前金を請へ御申
	込下さい
	▲特大の場合は其の都度
	御申込をより御申込を申
	下さい

★表紙
大東軍戦中漫画誌
昭和十七年九月一日印刷
印刷局
東京市
内閣印刷局
東京市

籤を楽しみながら貯金が出来る

第四回賣出

8日→15日

抽籤日

21日

當籤割合

100枚に1枚

割増金

一等賞	1名	10万円
二等賞	5名	5万円
三等賞	10名	2万円
四等賞	50名	1万円
五等賞	100名	5000円

抽籤の済んだ切手は五枚以上纏めて郵便局へお差出しの上、特別据置貯金證書と引換へて下さい。

だんがんきつて
一枚二円

賣切れぬうちにお早く郵便局へ

郵便局で買えます

内閣印刷局印刷発行

郵便局でA4切手に貼るはがきの裏面